



「2016 院内助産の会」 in しんしろ助産所

平成28年11月13日（日）「静岡県西部地区院内助産の会」がしんしろ助産所で開催されました

この会は、聖隷三方原病院や浜松医療センターに院内助産所ができた2年後の平成25年に、当時聖隷三方原病院産科部長でいらした囑託医の宇津先生の声掛けで始まったものです。

第1回は聖隷三方原病院で開かれ、浜松市内の院内助産所を有する三病院、「聖隷三方原病院(たんぼぼ)」「浜松医療センター(めばえ)」「聖隷浜松病院(OCO)」が集まり、実践報告や情報交換が行われました。聖隷三方原病院院内助産所のオープンシステムを利用して「しんしろ助産所」も招待して頂きました。以後、年に1回、各施設持ち回りで開かれており、今年度はしんしろ助産所での開催になりました。浜松からは遠方のため参加していただけた心配していましたが、各施設から2〜4名の出席があり、しんしろ助産所の施設や設備も併せてみていただくことができました。

自然に囲まれ、児童館やこども園にも隣接している子育てに適した立地や木を多用した落ち着いた造り、安全面への備えに助産所へのイメージも一新されたように感じました。

実践報告では、聖隷三方原病院が「たんぼぼで分娩対象外となった妊婦の事例」院内助産所対象外事例の理由と医師管理分娩への移行時期・移行後の分娩経過のまとめ、「浜松医療センター」は、分娩時に産婦の気持ちに寄り添えたらどうか…との反省から、「産婦とともに産の振り返りを繰り返し行うことで、産婦自身が気持ちの整理をつけることができた症例」、聖隷浜松病院は現状報告に加え、「院内助産所を担当する助産師の技術習得に向けた具体的な取り組み」が紹介されました。

しんしろ助産所は「寄り添うお産」と題し、進行の早いお産が予測されたが、産婦の気持ちや家族背景を考慮して自然に陣痛が来るのを待ち、出産にのぞめた事例を報告しました。

施設は異なっても、院内助産所で働く助産師にしか分からない悩みや思いも共有できた会でした。

また今回は実践報告の後、新城保健所健康支援課長の塩之谷真弓さんに、「周産期からの虐待予防」について講演をお願いしました。あいち小児保健医療総合センター開設時から、数多くの被虐待児や苦悩する親のカウンセリング、虐待予防に携わってこられた塩野谷さんの話はエピソードに富み、90分という講演時間も短く感じられました。

HFA (Healthy Families America) 児童虐待予防プログラムやケンファセスメント(ストレス調査)を参考に愛知県で行われている妊娠届時アンケートを活用した愛着形成支援、具体的な支援法についても詳しく聞くことができました。なかでも、「愛着の絆(Protect shield: 保護の鎧)共感と応答の繰り返し」鎧の積み重ね」について、鎧に見立てたケープを何層にも巻いたぬいぐるみを手に、母親が子どもに愛情をもった言葉をかける「こどもは何層にもなった厚い保護の鎧をまとい、自己肯定感につながっていく話」が今も心に残っています。

実りの多かった院内助産の会。これからも、こうした会を通じて連携を深め、実践力を高めていきたいと思っております。



奥三河の保健センター、学校にも出かけています

東栄町「母乳育児相談」年4回
場所：子育て支援センター
対象：子育て中の母親とその家族
内容：「ここに広場」の子育て相談
日に出向き、母乳育児や赤ちゃんのケアの相談にのる。
※しんしろ助産所で出産されたお母さんやお子さんたちの再会も楽しみです。

設楽町「妊産婦健康診査」の委託契約を結んでいます。
内容：しんしろ助産所でも妊婦健康診査受診票をそのまま使えます。
※今年度は津具中学の職場体験をお受けしました。

豊根村「ベビーマッサージ教室」年2回
場所：豊根村保健センター
対象：未就園児(0〜3歳)を持つ保護者
内容：ベビーマッサージ
この他、豊根村が行う母乳育児相談の委託を受けています。
※学校で「いのちの授業」をさせてもらったり、中学生の職場体験をお受けしたこともあります。

奥三河での活動

十一月下旬、豊根中学校の「いのちの集会」で、「かけがえない命」をテーマに講話を行ってきました。

助産所では「いのちの授業」と呼んでいますが、いじめや自殺のニュースが後をたたない中、生命誕生の瞬間に立ち会う助産師として、大変な競争を経て生まれようとして生まれてきた命のことも命を育んでくれた母親の頑張り、両親や家族に祝福されてようやく誕生した命であることを子ども達に伝える機会になります。

平成23年度に1校から始まった「いのちの授業」も、今年度は5校に増え、小学生から高校生まで、幅広い子どもたちと接してきます。毎年声をかけてくださる学校もあり、豊根中学校で行うのは4回目。

「親と子のコミュニケーション」がテーマの今回は、妊娠中の胎児からまだ言葉を話せない赤ちゃんも親がどのようにコミュニケーションをとっているかを、胎動で胎児とキックゲームする動画や、胎児の聴覚や嗅覚の発達をパワーポイントで見せながらの1時間授業です。命が芽生え生まれるのは奇跡的なこと、私達の誰もが、母親の胎内から出産までの過程で生きる力を持って生まれたこと、愛情を持って育ててくれた家族がいて今があることを話の軸。

重さ3kgの赤ちゃん人形や、参加してくれたらか月の抱っこ体験では、緊張している子、照れる子、うれしそうなお子など反応も様々でしたが、皆、大事そうに抱える姿をみて嬉しくなりました。

後でいただいた感想には「赤ちゃんを抱っこして命の重みを実感した。」「私達が成長していくことは、親にとってもすごく幸せなことだと分かった。」「今まで以上に親と話したい。」「親に感謝したい。」「なごのことは書かれており、メッセージをきちんと受け取ってもらえたことが伝わってきました。」「今回のいのちの集会を通して、いのちの大切さ、生きることの素晴らしさに気付き、自尊感情を高めたい。」「きっかけとしてくれることを願っています。」

院内助産所 ネーミングの由来

◆聖隷三方原病院 2009年3月開設
たんぼぼのように、可憐で優しく、地に深く根を張り、綿毛のようにつけて幸せの種子が広がるようにと命名。

◆浜松医療センター 2009年4月開設
幸せを与えてくれる天使のような赤ちゃん、Xティカル、ハース、エンジェル(天使)の頭文字をとった公募。新しい命が誕生し、健やかに成長してほしいという願いが託されています。

◆聖隷浜松病院 2011年10月開設
生まれて直ぐの泣き声や新しく物事を始めることを意味する呱呱(ごうごう)に、個々や心算をかけて、院内助産所でたたくお産の音が響き、最高のお産ができるように命名。外国の方も読みやすいように表記はローマ字。

<フログ> しんしろ助産所だより
<メール配信> 子ども園メール
<電話> 0536-32-1050